



EL SALVADOR

学校名：鶴ヶ島市立杉下小学校

氏名：飯野 直美

〔担当教科：小学校全教科〕

● 実践教科等：道徳、生活

● 時間数：4時間

● 対象生徒：小学校1年生

● 対象人数：35人

〔1〕単元名

せかいのあちこちに、「ありがとう」

〔2〕単元の目的/目標（ESDの能力・態度）

- ・みんなで楽しみながら、異文化への興味関心を高める。（進んで参加する態度）
- ・エルサルバドルと日本の相違点や類似点に目を向け、様々な角度から物事を考える素地を養う。（多面的・総合的に考える力）
- ・エルサルバドルと日本の関わりを通して、自分たちの生活を振り返る。（つながりを尊重する態度）

〔3〕ESD（持続可能な社会づくり）の視点

多様性	相互性	有限性
公平性	連携性	責任性

- ・日本とエルサルバドルの違いに気付く。【多様性】
- ・日本とエルサルバドルの助け合いを知り、身近を振り返り、自分たちも助け合おうとする心情を高める。【連携性】

〔4〕単元の構成

時限	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の観点と方法
1	【「ありがとう」で…せかいりょうこ！】 ・様々な場面に「ありがとう」があることを知り、相手のことを考えた話し方をしようとする態度を養う。 ・様々な言語の「ありがとう」があることを知り、関心を持つ。 (道徳)	・あいさつにはどんなものがあるか考える。 ・こころのノートの絵を見て、「ありがとう」の場面を、見つけて話し合う。 ・様々な国の「ありがとう」の言い方を知る。 ・担任がエルサルバドルに行ってきたことを知る。	・こころのノート ・世界地図 ・世界の「ありがとう」カード	学習活動の観察 「ありがとう」の場面を進んで見つけている。（進んで参加する態度）
2	【エルサルバドルをしよう！】 ・エルサルバドルの遊びや文化に触れ、異文化への興味関心を高めるとともに、自分たちとの違いに気付く。 (生活)	・エルサルバドルクイズをする。（国旗、季節や服、食べ物、住居、遊びなど） ・エルサルバドルの遊び等を体験する。 ・学習した感想を書く。	・世界地図 ・パワーポイント ・現地で収集したグッズ ・感想用紙	学習活動の観察・感想用紙の記述 自分たちとの違いに気付いている（多面的・総合的に考える力）
3	【エルサルバドルの小学校ちがうところ・おなじところ】 ・エルサルバドルの学校生活を知り、杉下小学校との相違点や類似点に気付く。 (生活)	・エルサルバドルの学校について、フォトランゲージで気づいた点を話し合う。 ・学校生活の様子を知り、自分たちとの違いや同じを考える。 ・学習した感想を書く。	・フォトランゲージ用資料 ・パワーポイント ・感想用紙	学習活動の観察 感想用紙の記述確認 相違点や類似点に気付いている（多面的・総合的に考える力）

4	【せかいのあちこちに、「ありがとう」】 ・日本とエルサルバドルの助け合いの場面に「ありがとう」があることを知る。 ・日頃お世話になっている人に感謝するとともに、自分たちも助け合おうとする心情を育てる。 (道徳)	・日本とエルサルバドルの助け合いの様子を知る。 ・自分たちの周りの「ありがとう」と思う経験を振り返り、ありがとうカードに書く。 ・教師が見つけた「ありがとう」の場面を紹介する。	・黒板掲示用資料 ・ありがとうカード(記述用)	学習活動の観察・カードの記述確認 自分たちの生活を振り返っている。 (つながりを尊重する態度)
---	--	--	--	--

〔5〕授業の詳細

1 時限目：【「ありがとう」で…せかいりょう！】

本時は、エルサルバドルの学習をしていくための導入にあたる。児童にとって身近な感謝の言葉「ありがとう」に焦点をあて、世界の国々にも日本と同様に感謝の言葉があることを知らせた。子どもたちが、世界への興味感心を高められるよう心がけて実践した。

- ①あいさつにはどんなものがあるかを出し合い、身近なあいさつについて振り返る。
- ②こころのノートの絵を見て、『ありがとうマン』を紹介。そして、「ありがとう」の場面を見つけ、話し合い、「ありがとう」の場面について理解を深めさせた。
- ③いくつかの言語の「ありがとう」と、使われている場所を伝えて、実際に各言語の「ありがとう」を言うことを体験した。世界各地にも「ありがとう」があり、場所によって言葉が違うことを知らせた。

(子どもに紹介した
世界の「ありがとう」)

- ・日本語 ・英語
- ・中国語 ・ロシア語
- ・フランス語
- ・アラビア語
- ・スワヒリ語
- ・ポルトガル語
- ・スペイン語



- ④エルサルバドルで使われているスペイン語を最後に紹介し、担任がエルサルバドルに行ってきたことを知らせ、次回からの学習への意欲を高めた。

2 時限目：【エルサルバドルをしよう！】

エルサルバドルクイズと遊び等の体験を行った。エルサルバドルの遊びや生活の様子を知り、異文化への興味関心を高めるとともに、自分たちとの違いに気付くことをねらいとした。

①エルサルバドルクイズ

国旗、季節、服、食物、住居、遊び等をパワーポイントや実物を見せながら進めた。

②エルサルバドルの遊び等の体験

4つの体験ブースを設置した。

1. けん玉遊び
2. コマ、ヨーヨー遊び
3. 藍染めの服を着る
コーヒーの香り、お土産に触る
ププサの歌を聞く
4. スペイン語カード
「Gracias」プリントに書く・話す

ココがポイント！

クイズ形式にすることで、楽しみながら学べるようにした。また、写真を豊富にすること、歌を聞くこと、実物を活用することで、エルサルバドルという国を五感で学べるように工夫した。

ココがポイント！

児童が最初に行くブースをあらかじめ決めておいて、一カ所に集中することがないように配慮した。2カ所目以降は、自分で体験ブースを選んで活動させた。

<児童の感想(一部。平仮名は漢字に変換)>

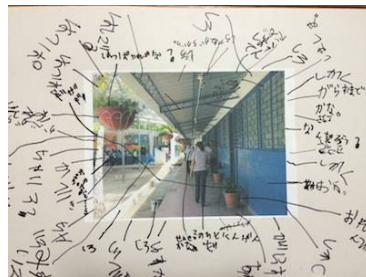
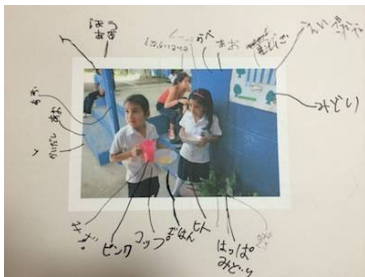
- ・けん玉が種類も違うし、けん玉が違ったのでびっくりしました。
- ・日本のけん玉は、左と右があったけど、違うけん玉は、やり方が違ったです。
- ・エルサルバドルの遊びって難しかったです。ヨーヨーが特に難しかったけど楽しかった。
- ・コマが楽しかったです。コマがはまりました。コマを持ってみたら重かったです。
- ・エルサルバドルのコーヒーは、いい匂いがしました。
- ・スペイン語のカードが面白かったです。
- ・先生が色染めしたマフラーが色がすごかった。
- ・合い言葉はグラシアス。スペイン語をもっと知りたかった。
- ・いろいろなおもちゃを遠くから買ってきてくれて Gracias

3 時限目:【エルサルバドルの小学校 ちがうところ・おなじところ】

本時は、エルサルバドルの小学校について知り、相違点や類似点に気付くことをねらいとした。

①フォトランゲージ(写真から読み取る活動)

3～4名のグループごとに、エルサルバドルの小学校の様子分かる写真(5種類)を配布した。写真を見ながら、気付いたことを写真の周りに書き込んだ。その後、自分のグループから離れ、別のグループのフォトランゲージにも書き込んだ。



ココがポイント！

フォトランゲージにより、児童にエルサルバドルの小学校の様子に対して自分なりの気づきや思いを持たせてから写真の解説へと進めた。

②フォトランゲージで使用した写真と動画の解説

黒板に掲示した児童のフォトランゲージと、パワーポイントを活用しながら解説をした。その後、エルサルバドルの小学校1年生の様子分かる動画を見て、自分たちと比べた。

最後に、小学校に勤務する青年海外協力隊の伊藤さんについて触れ、次回の予告をした。

<児童の感想(一部。ひらがなは漢字に変換。)>

- ・休み時間に食べるなんてビックリしました。杉下小学校と違うところがありました。廊下が、外側にあるのもまたまたビックリ！
- ・机をつけて勉強をしているところが同じ。
- ・エルサルバドルの子がいっぱいいました。机と椅子が同じでした。
- ・エルサルバドルでは算数で算数ブロックが無いから、その代わりにキャップを使うところが違うなと思いました。
- ・エルサルバドルのリサイクルってすごい。(算数で使用したペットボトルのキャップについて)
- ・小学生と中学生がまじってビックリしました。
- ・どっちかっていうと違うところが多い。

◎授業後に、エルサルバドルで教師が撮った写真のアルバムや、エルサルバドルの教科書を学級文庫に入れ、児童がいつでも見られるようにした。

ココがポイント！

休み時間に手に取って見られることで、エルサルバドルに対する、児童の親近感を高めた。

4 時 限 目：【せかいのあちこちに、「ありがとう」】

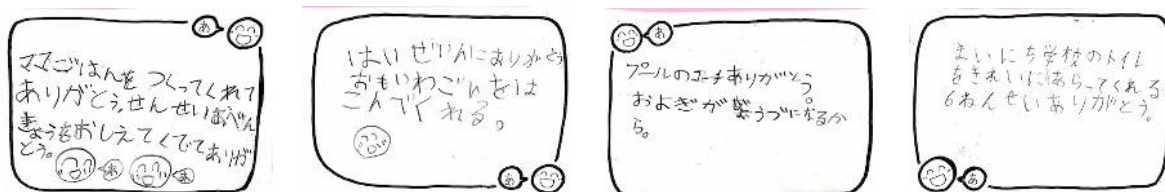
本時は、日本とエルサルバドルの助け合いの場面に「ありがとう」があることを知るとともに、身近な「ありがとう」を振り返って日頃お世話になっている人に感謝すること、自分たちも助け合おうとする心情を育てることをねらいとした。

- ①日本とエルサルバドルの助け合いの様子を知る。

青年海外協力隊の伊藤さんについて紹介。その後、伊藤さんと同じようにエルサルバドルを助けている日本人がいることも紹介。そして、東日本大震災の時に、エルサルバドル人が日本を励ます会を開いたことなど、エルサルバドル人が日本を助けたり、励ましたりした出来事を紹介し、「ありがとう」があることを知る。

- ②自分たちの周りにある「ありがとう」を振り返り、「ありがとうカード」に書く。
教師が見つけた「ありがとう」の場面を紹介する。

＜児童の「ありがとうカード」(一部。)＞



コヨがポイント！

児童の周りの「ありがとう」を具体的にするために、写真で紹介した。今回は、ALT、配膳員、6年生、学級の友達を選んだ。ここでも『ありがとうマン』登場。こころのノート・世界・自分たちの周りとの繋がりを持たせた。



〔6〕児童・生徒の反応/変化

世界の学習をすると伝えると「やったー！」と声を上げ、授業を楽しみにしている様子だった。エルサルバドルのことを知らなかった児童が、クイズや遊びを通して親しみを持ってくれたようで、図書室の地球儀を見てエルサルバドルを探していたり、休み時間に「Gracias」と話したりしている姿が見られた。

〔7〕授業実践の成果と課題

成果: 国際理解教育を深めていくための素地の醸成

単元終了後の感想では、「もっと遊びたかった」「エルサルバドルの人や食べ物をもっと知りたい」「他の国のことも知りたい」という感想があり、遊びやクイズ、フォトランゲージなどを通して異文化への興味関心は高まったようだ。エルサルバドルの様子を知って驚きながら、日本とエルサルバドルの相違点や類似点を1年生なりに考えていた。外国にも自分の周りにも「ありがとう」があることに気付き、自分たちの生活を振り返ることができた。

課題：自分たちができる実践を。

今回は、日本とエルサルバドルの助け合いを知り、自分たちも助け合おうとする心情を高める視点で授業をした。今後は、今回の授業を受けて児童ができる実践をさせたいと考えている。各教科や行事の中で、「ありがとう」を形にすること、助け合うことを取り組みたい。例えば、生活科「みんないっしょに」（うちの人）、給食感謝の会（給食関係の人）、6年生を送る会（6年生）などを、本単元を活かして実践をしていきたい。

〔8〕参考文献(引用文献·参考資料)

- ・『こころのノート』 文部科学省 2009 年
- ・『帝国書院 M 地図掛図 世界全図―地勢―』 帝国書院
- ・『平成24年度 教師海外研修報告書～国際理解教育の授業実践事例集～』

・「実施レポート | ご利用いただけるサービス-JICA 地球ひろば」

<<http://www.jica.go.jp/hiroba/menu/teacher/report/index.html#jissen>> JICA 地球ひろば
(2013 年 9 月 1 日アクセス)

・「外務省:「がんばれ日本! 世界は日本と共にある」(世界各地でのエピソード集):中南米(中米)」

<<http://www.mofa.go.jp/mofaj/saigai/episode/episode12.html>> 外務省
(2013 年 12 月 1 日アクセス)

・「エルサルバドル(El Salvador)-a set on Flickr」 Flickr (2013 年 12 月 1 日アクセス)

【9】使用教材(写真／図などの実物)

2 時限目:【エルサルバドルをしよう!】

◎パワーポイント(全18ページ)

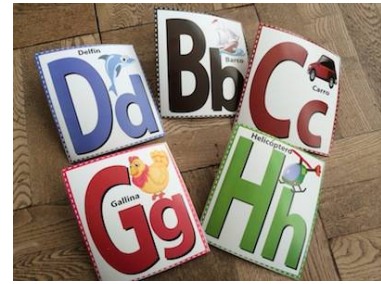
せかいのがくしゅう	たいせつなこと ☆「へえ〜」「なるほど」 ☆つるがしまと おなじところ、ちがうところを見つけよう	せんせいは、エルサルバドルの へんきょうをしました。  エルサルバドルをしようかいます。	エルサルバドルをしよう! ☆クイズ☆
エルサルバドルの こっきはどっち?  ① ②	エルサルバドルには、ふゆが ない。 ○ ×	せいかいは、  「ねん、はんそでだよ。」	 「あいぞめ」をしたふくも、あるわよ。
このふくは、どんなときに きるでしょうか? ～ しばらく おまちください。～	せいかいは、ダンスのとき 	たべもの 	あさごはんは、なにかな?  コーヒー バナナの あげもの
ゆうめいなたべもの! ①ピピサ ②プサ せいかいは、  どうもこのこで、つくったのよ。	いえ (まど・いりぐち・やねには・・・) 	エルサルバドルには、けんだまがある。 ○ × せいかいは、  わたしたちが しているけんだまと おなじかな?	エルサルバドルをしよう! ☆たいけんしよう☆
①カピルージョ(けんだま) ②トロンボー(コマ) ヨーヨー(ヨーヨー) ③コーヒーのこな、あいぞめ など ④スペインご たいけんを しようよ!	エルサルバドルをしよう! ☆かんそうをかこう☆		

◎体験ブースで使った物(一部)

けん玉・コマ・ヨーヨー

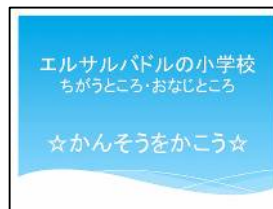
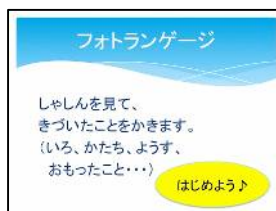
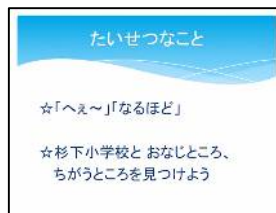
ピニャータ(人形)・藍染めのショール

スペイン語のカード



3 時限目:【エルサルバドルの小学校 ちがうところ・おなじところ】

◎パワーポイント(全12ページ)(6~9ページはフォトランゲージで使用)



〔10〕教師海外研修を終えて(感想・今後の展望)

本研修で、本当に多くの経験をする事ができた。事前研修では、開発教育やESD(持続可能な社会づくり)の視点についての講義やワークショップを異校種の教員同士で学び合えたことで、技能が高まった。海外研修では、エルサルバドルの文化や社会情勢、JICAの活動現場などを視察したことで、知識が増え、感性が磨かれた。これは、自分にとって大きな収穫であった。

その上での授業づくりは、難しかったが、楽しかった。1年生なりに、外国について楽しんで理解することができるよう、そして自分たちの生活を振り返られるように授業づくりを心がけた。今回の授業は、児童にとっては国際理解のほんの入り口。「これからも、もっと知りたい」という思いを感じさせることができたのでよかったと思う。

今後も、授業の質をより高めるために、実践や研修を続けていきたい。そして、児童と共に視野を広げていきたい。